

神無月

〔かなづき〕 令和3年10月

古くから日本中の神々が出雲大社(島根県)に集まると信じられていたので、出雲以外の神社には神様がいなくなってしまうという意味があります。

発行：北海道神社庁一区教化委員会

言葉に花咲くものは必ず実りなし

新井白蛾

今月のことば

言葉に花咲くものは必ず実りなし

新井白蛾

口先だけの人間になるな。言葉だけで花が咲いても、そこから捻りは生まれてこない。人間の大切なところは、言行一致である。言葉にも実があるものは、行いにも実がこもっている。

世間で人間を見ているのは言葉と実行とが伴っているか、どうかである。善言美辞を並べるのはよい。しかし、世間ではその人の行為の上に、それが現れているかどうか注目されている。見えるところ見られているところから、言行一致を実行していきたい。

(統神道百言 一般財団法人神道文化会編より抜粋)

季節のまつり

千歳

十月十五日

七五三祝

七五三の祝は、「七歳までは神の子」といわれた時代に、三歳の男女児が髪を伸ばしはじめる「髪置」、五歳の男児がはじめて袴を着ける「袴着」、七歳の女児が大人の帯を着けはじめる「帯解」の儀式に由来します。子供の心身の成長の節目にあたる縁起の良い奇数の歳に、氏神様にお参りし、無事成長したことへの感謝とこれからのご加護をお願いします。

十一月十五日は「鬼宿日」、つまり鬼が歩かず自分の家にいるため一年で最良の日とされてきたことや、霜月参りで氏神様を山に送り出す日に当たっていたことから、この日が七五三のお祝いの日に決められたと言われていますが、北海道では気候の関係から、一ヶ月早い、十月十五日に行う習慣があります。

神嘗

十月十七日

伊勢神宮神嘗祭

天皇陛下が新穀を伊勢の神宮に献る一年中で最も重要な祭りです。外宮では十月十五日の夕と十六日の朝に由貴大御饗を供進し、十七日は勅使が参向します。内宮では、十月十六日の夕と十七日の朝に由貴大御饗を供進し、十七日は勅使が参向します。神宮では六月・十二月の月次祭と神嘗祭の三祭を三節祭と呼び、最も大切な祭りです。

かみありづき
神在月とは？

十月は神無月で、出雲は神々が集まられるので神在(かみあり)月だという信仰が今もあります。またカンナヅキは神を祭る『神の月』だとか、神酒醸造のための「醸成月(かみなしづき)」だという説等は、いづれも篤い信仰を物語ります。そして刈上祝いに直結する秋祭りこそは、年間最大の賑わいを呈します。

早春以来、豊作を祈り続けた農民の心に満足がもたらされると歓喜の表現をするのは当然であって、この方法を日本は古代から「神在月」の祭りをあらわして来ました。人々の心は祭りに結集し、祭りは日本人の心を培うという相関関係が繰り返されてきました。そのため祭りの繰返しが途切れることは、最も重大なことが断絶されることに繋がる恐れがあります。

仁義道徳

人として守るべき正しい道。またその道にかなう生き方をすること。



こすもす 秋桜

参考文献 『日本人数のしきたり』飯倉晴武(青春出版社) 『くらしと祭り百話』小野迪夫(神社新報社)

日	月	火	水	木	金	土
					1 友引 うま	2 先負 ひつじ
3 仏滅 さる	4 大安 とり	5 赤口 いぬ	6 先負 る	7 仏滅 ね	8 大安 寒露 うし	9 赤口 とら
10 先勝 う	11 友引 たつ	12 先負 み	13 仏滅 三りんぼう うま	14 大安 ひつじ	15 赤口 七五三(北海道) さる	16 先勝 とり
17 友引 伊勢神宮神嘗祭 いぬ	18 先負 十三夜 る	19 仏滅 ね	20 大安 土用 うし	21 赤口 とら	22 先勝 う	23 友引 霜降 たつ
24 先負 み	25 仏滅 三りんぼう うま	26 大安 ひつじ	27 赤口 さる	28 先勝 とり	29 友引 いぬ	30 先負 る
31 仏滅 ね						

※東京オリンピックの関係上
スポーツの日が7月に移動した為
本年10月の祝祭日はありません。

二十四節気

【寒露 かんろ】…八日

旧暦九月戌の月の正節で、このころになると、五穀の収穫もたけなわで、農家ではことのほか繁忙を極めますが、山野には晩秋の色彩が色濃く、朝晩は肌がぞぞる寒気を感じはじめるようになります。寒露とは、晩秋から初冬にかけて野草に宿る露のことをさします。

【霜降 そうじょう】…二十二日

旧暦九月戌の月の中気で、秋も深まり、早朝など、ところによっては霜を見るようになり、冬の到来が感じられます。

六曜・選日

《六曜》

【先勝】…諸事急ぐことによし、午後よりわるし

【友引】…朝夕よし、正午わるし、葬式を忌む

【先負】…諸事静かなることによし、午後大吉

【仏滅】…万事凶、患えば長びくおそれあり

【大安】…何事をするのにも吉の日、大吉日

【赤口】…諸事油断すべからず、正午のみ吉

《選日の吉凶》

【三りんぼう】…三隣亡日、普請始め、棟上大吉日

10月の季語・時隙の挨拶

仲秋、中秋、紅葉、初霜、寒露
秋涼、秋雨、秋晴、錦秋、秋月
秋冷の候／芸術の秋／夜長の季節となり／秋雨が降り続き／秋も深まってまいりましたが／木の葉も色づき始め／ひと雨ごとに秋も深まり・・・など

安産祈願 10月の戌の日

5日(火)
17日(日)
29日(金)

*戌の日以外でも安産祈願のご奉仕をしております。神社にお問い合わせください。

祝祭日には国旗を掲げましょう

「十三夜」…十月十八日
「十五夜」と同じ場所から感謝の月見
旧暦の九月十三日、今年も十月十八日の月見を「十三夜」といい、十五夜を中秋の名月と呼ぶのに対し、十三夜は秋の収穫を祝うという意味もあり、豆や栗などの作物を供えましたので、「後の月」「豆名月」「栗名月」ともいいます。
旧暦の毎月十三日の夜を「十三夜」といっていましたが、旧暦九月の十三夜は、十五夜について美しい月とされ、宮中では、平安時代から宴を催すなど月を鑑賞する風習がありました。十五夜は中国から伝わったものですが、十三夜は日本古来の風習で、秋の収穫祭のひとつではないかといわれています。
一般に十五夜に月見をしたら、必ず同じ場所でも十三夜にも月見をするものともされてきました。これは十五夜だけ鑑賞するのは「片月見」といって嫌う風習があったからです。